



© Masaki Fujihata + IAMAS

ソフトピアジャパン(大垣)の原点

「DX＝デジタル・トランスフォーメーションの将来」を主題にした展覧会を開催し、この主題に対して、ふたつの原点から思考しました。ひとつはインターネットに象徴されるメディア技術の原点。もうひとつはIAMASが所在するソフトピアジャパンの想像力の原点です。ふたつの原点の象徴として展示したのが、世界的なメディア・アーティスト・藤幡正樹の作品《Light on the Net》でした。この作品は、1996年にソフトピアジャパンとの共同研究で制作された本作は、物理的な照明装置の筐体とウェブサイトから構成される作品で、現代アートの美術史において、インターネットを活用したアート作品の嚆矢と位置づけられています。光の明滅による非言語的なコミュニケーションから、間合いや、接触を通じた現在のDXでは省かれがちな体験が自覚されました。この他にも絵画、有線放送、ラジオ、時報といったオールドメディアを主題としながら、デジタルによる表現を凝らした作品が、メディア技術の温故知新を来場者に問いかけました。

本展を機に、藤幡正樹《Light on the Net》はIAMAS附属図書館に常設され、稼動中。以下のQRコードよりアクセスできます（松井茂）。

